

拘束時間の短縮成功 中継輸送

同業他社との中継輸送により物流の合理化・効率化に取り組みのが仙台配送（尾上寿昭社長、仙台市宮城野区）だ。同社は萬運輸（東海林憲彦社長、横浜市鶴見区）と協力し、栃木県

矢板市でドライバーを交代する2社間ドライバー交代式の中継輸送で、相模原市まで運行している。これにより、担当ドライバーの拘束時間を14時間から11時間に短縮することに成功した。

時間外労働の上限規制と改正改善基準告示が適用される4月1日まで、残り1カ月を切った。地理的条件から長距離輸送を避けられない東北の各運送事業者は、様々な対策を講じて「2024年問題」への対応に尽力する。中継輸送や混載便輸送、荷役の分離など、あらゆる面から業務効率化へ取り組む東北各社の対応策をリポートする。

（鈴木明香理）



白金運輸（海鋒徹哉社長、岩手県奥州市）でも、

「SHIROGANE絆リレー便」と称するドライバー交代方式の中継輸送に取り組んでいる。中継点を福島県国見町、埼玉県春日部市の2カ所に設け、岩手、静岡の両県の往復約1300kmを、3人のドライバーが交代しながら結ぶ。各中継点でトラックを乗り継ぎ、岩手発のドライバーの場合は国見で、春日部から来たトラックに乗って岩手に帰る。往復3日の拘束時

仙台配送は、萬運輸との2社間ドライバー交代式の中継輸送で相模原市まで運行

間は9、10時間と大幅に削減され、片道9時間の休息が不要となり、日帰り運行

が可能になった。同社は「絆リレー便輸送を「運び方改革」として自社ブラン

ド化し、広くアピールしている。

東北の運送事業者

長距離輸送 様々な対策